

## 「ボランティア活動グループ みんなの手」の活動を見学しました

2026年8月8日（土）に、府中町のマイ・フローラ南交流センターで実施された2026年「話ことば」教室8月の活動を見学しました。



ボランティア活動グループ「みんなの手」は、府中町に住む子どもたちを対象に、「小嘶」や「なぞかけ」の教室を通じて知恵を育み、個性を磨き、豊かな才能を伸ばすことを目的に活動されています。また、学びの機会を提供するだけでなく、地域活動への参加を通じて住民同士の親睦を深める場づくりにも取り組まれています。この活動の背景には、少子高齢化が進む中で地域における共助の重要性を改めて見つめ直し、住民同士が支え合いながら安心して暮らせる地域社会の実現に貢献したいという、団体の熱い思いがあります。

見学に伺った当日は、通常の活動に加え、7月に発生した令和8年熊本地震を受けて、防災授業が実施されました。講師を務められたのは、日頃から同団体の活動を支援されている方で、府中町防災士および府中町消防団員としても活動されています。

授業では、防災において「自助」と「共助」の取り組みが重要であることについて、東日本大震災の際に岩手県釜石市の中学生らの迅速な避難行動によって多くの命が救われた事例「釜石の奇跡」を紹介しながら、命の大切さを伝えられました。さらに、広島県でも発生が懸念される南海トラフ地震について説明があり、自分たちの住む地域のハザードマップの入手方法や活用方法を学びました。また、日頃から実践できる食料のローリングストックや、災害時に必要となる非常持ち出し袋について、講師自身が準備されている実物を見せながら分かりやすく説明してくださいました。特に印象的だったのは、「非常持ち出し袋は、まず空いているバッグに水を1本入れるところから始めればよい」「ローリングストックも、

家にある缶詰やレトルト食品、インスタント食品を活用すればよい」というアドバイスです。災害への備えを難しく考えず、身近なところから始められることを知り、防災への心理的なハードルが大きく下がりました。「難しく考えなくていいんだよ。気軽に取り組むことも立派な防災なんだよ」という講師の言葉は、



保護者とともに参加していた子どもたちの心にも響いたようで、家庭における防災意識の向上につながった様子がうかがえました。授業の最後には、参加者へアルファ化米が配布されました。防災授業は9月の活動でも継続して行われる予定とのことです。

続いては、子どもたちが楽しみにしていた「話ことば教室」です。社会人落語家の葡萄亭わいん師匠を講師に迎え、年間6回程度の教室を開催し、その成果を地域のクリスマスイベントで発表する計画となっています。

まずは発声練習から始まりました。題材として取り上げられたのは、北原白秋の「あいうえおの歌」や、金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」「こだまでしょうか」などの作品です。講師の「あめんばあかいな、あいうえお」という声に続き、参加者はお腹から大きな声を出して朗読します。その後は子どもの一人がリード役となりながら練習を重ね、言葉に感情を込めて表現することも学びました。

十分に声が出るようになったところで、次はなぞかけづくりに挑戦です。最初のお題は「『花火』とかけて、〇〇ととく。そのころは？」です。講師が「花火ってどんな音がするかな？」と問いかけると、子どもたちからはすぐに「パチパチする！」という元気な答えが返ってきます。さらに、「パチパチするものには他にどんなものがあるかな？」との問いには、「ポップコーン！」「そろばん！」など、身近なものが次々と挙げられました。

講師が一人ひとりの発言を丁寧に拾いながら話を広げていくと、子どもたちは次第に発想のコツをつかんでいきます。友達の発言に刺激を受けるうちに「思いついた！」と笑顔を見せる場面もありました。なぞかけが進むにつれ、子どもたちの発想はさらに自由になっていきます。講師の巧みなリードのもと、子どもたちは楽しみながら次々となぞかけを完成させていきます。慣れてくると、花火の音だけでなく情景やイメージを広げて考えられるようになり、「月」や「雨」などを題材にした発想も生まれました。自由で柔軟な発想力には、大人が思わず感心させられる場面が数多くありました。

さらに、講師から「こんな病院が好き（行ってみたい）。どんな病院？」というお題が告げられ、子どもたちから次々とユニークなアイデアが飛び出し、会場は大いに盛り上がりました。

次回の教室は9月に開催される予定で、参加者は地域イベントへの出演も控えているそうです。

この活動は、子どもたちの国語力やコミュニケーション能力の向上につながるだけでなく、地域の方々と交流しながら自然に顔見知りの輪を広げる機会にもなっています。楽しみながら地域とのつながりを育み、まちづくりにも貢献できるこの取り組みは、地域共生社会の実現に向けた新しいアプローチとして大きな可能性を感じる活動でした。（本郷）